



始発駅ウラジオストック

昨年暮れシベリア鉄道が、全線電化された。早速ロシア大陸全長9288kmを横断してみようと、敢えて豪雪期に挑戦してみた。シベリアを知るには、その本来の姿が分る雪深い季節に訪れるに限る。途中イルクーツクに1泊しながら、始発ウラジオストック駅から終着駅モスクワまで、いまだき車内で6泊もする世界一長い鉄道の旅に出かけた。

厳冬期シベリア鉄道を行く

JAPANNOW
観光情報協会 理事 近藤 節夫

各コンパートメント車両には、専属の二人の女性車掌がいて、トイレや廊下の掃除から、湯沸し、暖房作業まで黙々と立ち働いていた。車内の気温は、大体30℃前後を表示して下着一枚か、精々シャツ一枚の重ね着で充分で、暖房はデッキにあるかまどを使った石炭だった。電化されたとは言え、暖房だけは電気系

た。油田の町・チユメニに停車した時のことである。数人の乗客がプラットフォームから駅舎へ買い物に行っている間に何の前触れもなく長い旅客列車がその狭間に停車してしまった。発車時間が迫り駅舎側に分け隔てられ、慌てた乗客が突如客車の下へ潜り込み、決死的に這って通り抜けたのである。もし列車が動き出したらと思うと、ぞっとする光景だった。

救いはたっぷりある時間と親切なロシア人気質だった。食堂車でロシア名物「ボルシチ」に舌鼓を打ちながら、気の好いロシアの人たちと日露国際交流を演出した。

線路に沿い1kmごとに建てられたキロポストがモスクワからの距離を表示しているが、同じキロポストのモスクワ側より

統を避ける。万が一にも停電したら、一晩のうちに乗客が一人残らず凍死してしまうという嘘のような話も聞いた。

最大の難問は、「ことば」だった。ロシア語とポディランゲージ以外まるで歯が立たない。国際列車と銘打ちながら駅名や、車内の表示もすべてキリル文字で書かれ、これほど外国人旅行者に気を遣わない乗り物も珍しい。だが、何とか身振り手振りで意思を伝えようとする私には、

りシベリア側の表示が1km多いことが不思議だった。聞けば些細なことのようにだが、これは吹雪等で路に迷った場合、小さい数字がモスクワ方面を指しているとの取り決めで工事や、保守管理にかかわる安全のための知恵が施されている。

やや単調な旅の連続だったが、行商人や地元の人たちとのものごかし会話や、やりとりが思いのほか愉快だった。それでも一度だけ度肝を抜かれたことがあった。

一味も二味も違っていた。